

「信仰は一つ」 エペソ4：5

16・7・17

I 「信仰は一つ」とは、福音の本質、主を信じる「信仰のみによって救われる」事＝神の前に罪人である私達が、主を信じる信仰により、「義（すべての罪が赦され無罪とされる、正しい者）と認められる」という福音の素晴らしい使信。この意味での「信仰が一つ」が、教会の一致の土台。パウロは、ユダヤ人にも異邦人にも、この一つの信仰、福音（信仰による救い）を宣べ伝えた。

「人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私達もキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです」ガラテヤ2：16。

私達は、感謝したい。もし神の救いの条件が、「律法（神の御命令）を完全に守った（心にも悪い思いが、いっさいない。嘘、偽り、陰での悪い行為がない。神と人をいつも心から愛している。心の中で神と人を悪く思ったことがない）人は救われる」ならば、世界中の誰も合格者はなく、救われなかった。神は、私たち人間の罪深さ、律法を完全には守れない弱さをご存知で、「律法の行いによる救い」ではなく、私達の罪の身代わりに死に、三日目によみがえられた「主イエスを信じる者は救われる」という福音（良い知らせ）を私達に与えて下さった。感謝！

II その信仰はどこからくる？

1. 三位一体の神から。

- ①父なる神。「神は私達を世界の基の置かれる前から彼（子なる神、主イエス）にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようと思われました」エペソ1：4。私達が教会に来れたのも、主を信じる事が出来たのも、父なる神の先行的選びの恵みがあったから！感謝。
- ②御子なる神、主イエス。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」ヘブル12：2。私達が信仰を始めたのではなく、創始者はイエス御自身。主に抛り頼むなら完成まで導き守って下さる。感謝。
- ③御霊なる神。「聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言う（信仰告白）ことはできません」Iコリント12：3。私達は、自分の力、理解、納得で主を信じたのではない。聖霊が、私達の罪を知らせ、認めさせ、その罪の為に主が十字架にかかり、三日目に復活された事を信じる信仰を与えられたから、私達は、主を信じる事が出来た。感謝。

2. 御言葉から。「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのである」ローマ10：17。私達は、御言葉の力により信仰が与えられた！

III 信仰と信心は違う。 真の信仰で、大切なポイントは？

信心深さで、救われるのではない。聖書全体から教えられる信仰で大切な事は、「何を」信じている信仰かという事、信仰の「対象」が大切。多く人は、信仰心を持っている。ある人は、占い、幸運を呼ぶと言われる高価な石、壺。しかし、それらの信仰の対象は、人々をだまし、私達を真に救う（神の前に赦される、永遠の命、新しい心に変えられ、新しい人生が始まる）ことはできない。私達には、確かな信仰の対象が与えられている。それは、聖書の御言葉であり、聖書が教えるまこと

の神、三位一体の素晴らしい神である。ゆがんだ、間違っただ信仰にならないように、聖書全体を、文脈を大切に読み味わいたい。信仰の対象である正しい神観を、聖書の御言葉により養われますように。

IV 「主を信じる信仰」は、律法の行いをおろそかにする結果となるか？

いいえ。

「信仰によって義と認めてくださいるのです。それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです」ローマ3：30, 31。

1. 「信じる」の原語の意味＝信じる、任せる、委託する。つまり、イエス様を信じるとは、ただ頭の知識で主を信じる事ではなく、主に自分の重荷を委ね、自分自身を主に委ねること。主との人格的な交わりのスタート。主との命あるつながり。
2. 主との命あるつながりという信仰。私達が、主を信じる時、新生、聖霊の内住、新しい命、神に似せられる新しい性質をいただく。それゆえに、主を信じると、自分の力で神の律法を守る人生から解放され、主からの新しい命、性質、聖霊の力により、また神の愛、神のあふれる恵みに感謝して、神の律法、神のみこころに従う人生に変えられ続ける。完成していない途上の私達、弱さも失敗も多い私達だが、主を見上げ、希望を持ちたい。神が変え続けて下さる！
3. 「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。…私たちは神の作品であって、良い行い（神の喜ばれる行い）をするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行い（神の喜ばれる行い）に歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです」エペソ2：10。
何という行きとどいた恵み！神の栄光を盗み、自分を誇る誇りは取り除かれる。心から主の祈りに導かれる。

「御名があがめられますように。…国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。

アーメン」マタイ6：9, 13